

第39回東北地区小中学校教頭会研究大会山形大会
第48回山形県小中学校教頭会研究大会 教育長挨拶

第39回東北地区小中学校教頭会研究大会山形大会並びに第48回山形県小中学校教頭会研究大会が、このように盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。また、皆様方を25万山形市民とともに心から歓迎いたします。

さて、先月の台風19号による記録的な大雨や水害等で、東北各地でも多くの尊い命が奪われました。また、被災された方々も数多くいらっしゃいます。心よりご冥福と、お見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

さらに、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から丸8年半が経過しました。当時、私は、本市の学校教育課長でしたが、多くの避難児童生徒の心のケアや避難所での生活環境・学習環境の整備、就学、そして、就学援助等について、バタバタと奔走したことがつい昨日のこのように思い起されます。山形県には最大時約1万4千人、山形市には約六千人の方々が避難されました。

これまで東北の皆様が心を一つにし、復興に向け邁進して参りました。しかしながら、被災地の復興にはまだまだ時間が必要であり、同じ東北の仲間として、息の長い支援を継続し、被災地の復興を少しでも手助けし、共に成長し、そして、共に発展していくことを心から願っているところです。

今年度、山形市内には小学生60名、中学生47名、計107名の震災による避難児童生徒が在学しております。「いのちの教育」を推進している山形市においては、子どもたちの心のケア、学習の支援、さらには、保護者への支援など、各学校を中心に、丁寧に対応させていただいております。至らぬ点など、お気づきのことがございましたら、お教えいただければ幸甚に存じます。

本日の東北教頭会研究大会は、「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」という大会主題のもと、今日的な課題について、実践をとおり、意見交換、情報交換をする会とお聞きしております。

近年の社会の急激な変化に伴い、子ども達や学校を取り巻く環境も大きく変化しております。また、新学習指導要領の全面実施が、小学校は来年度、中学校は令和3年度と迫ってまいりました。各学校においては、子ども達が未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成することが求められております。

さらに、その他にも、学校教育について多くの課題が提起されており、これまでにない学校

教育の大きな転換期を迎えているように思います

そこで、8年前の東北楽天ゴールデンイーグルスの嶋基宏選手の力強い言葉をお借りし、「見せましょう、東北の教育の底力を、東北の教員の底力を」と教頭先生方をお願い申し上げるしだいです。

ここにお集まりの副校長先生・教頭先生が英知と創意をこらし、教職員の先頭に立たれ、全教職員が一体となった学校経営を進め、諸課題を乗り越えられますようご期待いたします。

そして、本研究会において、各地域や各学校の取り組みの成果と課題を共有し合い、活発な意見交換により、東北6県の小中学校が、魅力ある確かな学校づくりに取り組まれることを心から願っております。

結びになりますが、東北地区小中学校教頭会並びに山形県小中学校教頭会の益々のご発展と、教頭先生方お一人お一人のご健康とご活躍、そして、本研究大会が実り大きなものとなることをご祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。